

病院に携わる方へ

いち
一から学ぶ
病院経営

マネジメントスキルUP



地域医療を支える

四国病院経営プログラム

SHIKOKU HOSPITAL MANAGEMENT PROGRAM

高知大学・香川大学・高知工科大学・高知県立大学 連携事業 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム採択事業

2022年度
受講生募集

四国病院経営プログラムでは1年間で 病院のトップマネジメントと OODA (Observe, Orient, Decide, Act) を実践できる 現場責任者を養成します

高知大学医学部は、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラム事業に選定され、香川大学・高知工科大学・高知県立大学と連携し、平成30年度から令和3年度まで病院経営学のプログラムを開設してきました。このプログラムは、病院長、副病院長などの経営責任者のみならず、医師、看護師、薬剤師、その他の医療従事者、事務担当者など多職種に対応し、病院経営に特化した人材育成を行うものであり、令和4年度以降もこれまで培ってきたノウハウを活かして質の高い人材養成をするため継続してプログラムを実施していきます。

対象者: 病院長、副病院長などの経営責任者、医師、看護師、薬剤師、
その他の医療従事者、事務担当者など

経営学で用いられる考え方を 講義とケースメソッドを通して学び、 現場の課題を解決する能力(実践力)を養います

●プログラム構成

▶ 必修科目

病院経営学講義

集中セミナー形式

経営5つの基礎スキル「組織」「会計」「財務」「マーケティング」「戦略」を中心に集中セミナー形式で実施します。

病院経営学演習

ケースディスカッション形式

経営事例(ケース)を用いてケースディスカッション形式で学びます。

病院経営学実習

実践実習

病院現場(自施設)での実践実習を行います。

その他、討論会・発表会、講演会あり

▶ 選択科目

本プログラムで定める公衆衛生学コース科目及び看護学専攻科目の中から選択履修

- | | | |
|-------------|----------------|----------|
| ・マネジメント入門 | ・メディカルデータマイニング | ・看護管理学 |
| ・医療政策・医療経済学 | ・疫学研究のための統計学 | ・看護管理学演習 |
| ・医療管理 | ・産業保健学 I | |

●修了要件

1年間で、本プログラムで定める科目から、**必修科目3科目**、**選択科目**(8科目から)**2科目以上履修**し、合格すること。本プログラムの修了者には修了証を授与します。あわせて、高知大学から学校教育法第105条の規定に基づき履修証明書(Certificate)を交付します。

●講師陣

第一線で活躍している経営者や大学講師、コンサルタントを配置しています。

●開講時間など

授業は、**平日の夜間(18:00以降)**または**土日の集中講義**です。

基本的にオンライン形式で行い、状況により対面形式も併用します。詳細は、それぞれの授業案内をご覧ください。



Hai Eishu
斐 英洙

主な授業科目: 病院経営学演習(ケースメソッド)
専門分野: 病院経営、ヘルスケアビジネス戦略

経営現場で重要なのは関係者の「納得解」です。本プログラムでのケース(経営事例)ディスカッションでは様々な職種が参加し多様な視点を得ながら「納得解」を探していきます。ぜひ熱い議論を楽しんで下さい。

ハイズ株式会社代表取締役、高知大学客員教授、
慶應義塾大学特任教授

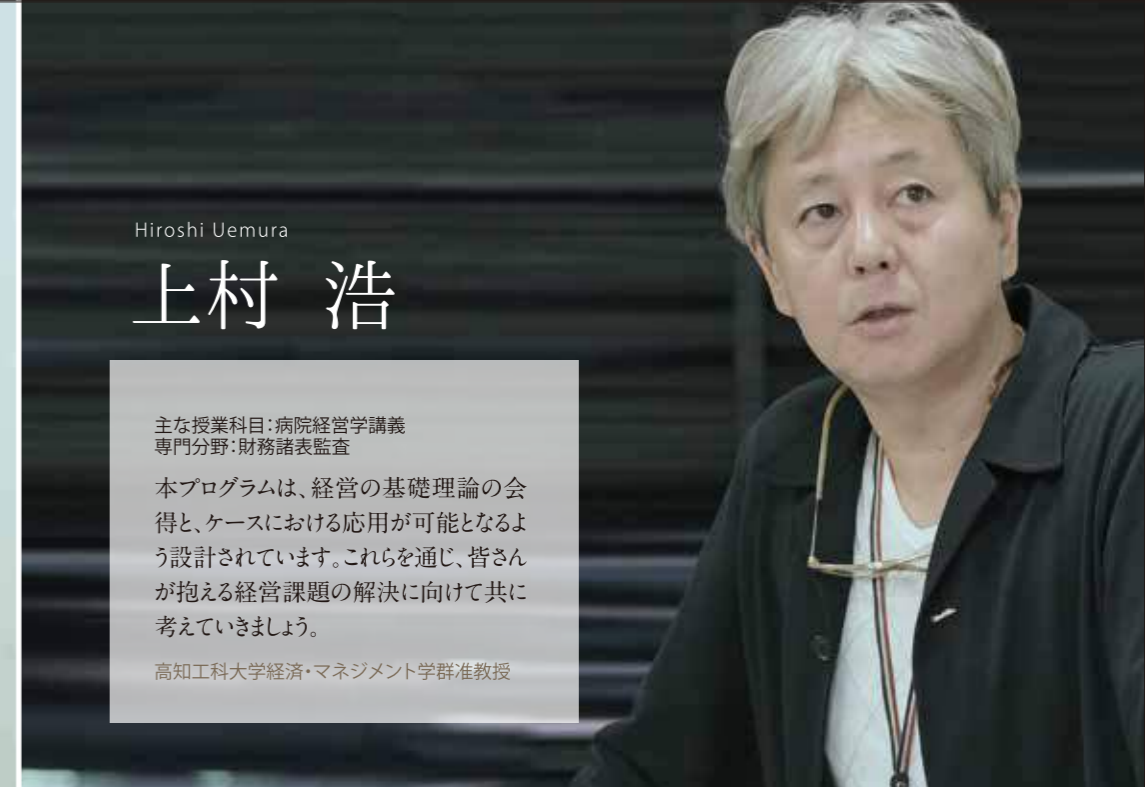


Narufumi Suganuma
菅沼 成文

主な授業科目: 病院経営学実習
専門分野: 産業医学、環境医学、衛生学

四国病院経営プログラムは、地域医療を支えている病院のトップマネージャーと現場責任者を同時に育てようとする挑戦的な取り組みです。最高の講師陣とともに病院経営の真髄を極めましょう。四国以外からのご参加も歓迎します。

事業推進プロジェクトリーダー、
高知大学医学部長・
大学院総合人間自然科学研究科
医科学専攻長



Hiroshi Uemura
上村 浩

主な授業科目: 病院経営学講義
専門分野: 財務諸表監査

本プログラムは、経営の基礎理論の会得と、ケースにおける応用が可能となるよう設計されています。これらを通じ、皆さんが抱える経営課題の解決に向けて共に考えていきましょう。

高知工科大学経済・マネジメント学群准教授

◆講師陣紹介 **現場のことも理解している 第一線で活躍中の経営者、大学講師、コンサルタントが講師です。**



Shinichiro Monobe
物部 真一郎

主な授業科目: 病院経営学講義
専門分野: Entrepreneurship / Venture finance / Digital Health

経営には絶対の正解はありません。当プログラムで、課題に直面した際に活用する、思考を整理するためのフレームを身に付け、直感で行う経営から、考える経営に変化させましょう。

高知大学医学部特任准教授、
株式会社エクスメディオ取締役



Taeko Moriki
森木 妙子

主な授業科目: 看護管理学・看護管理学演習
専門分野: 看護管理学

マネジメントは、トレーニングすることが大事。そこで病院経営学実習でトレーニングを重ね、戦略を導き出しましょう。さらに職種や経験の異なる受講生の議論は、刺激的です。

高知大学大学院総合人間自然科学研究科
看護学専攻長

動機▶自施設は、急性期から地域での生活期を見据えた質の高いリハビリテーション提供に努めています。現場の課題に対する戦略は、私自身、経営や管理という視点が乏しく力不足を日々感じていました。今回、「OODAを実践できる現場責任者の養成」という本プログラムで、管理運営を体系的に学び、理論に基づいた働き方を身につけることで、厳しい社会情勢の変化にも柔軟に対応できるリハビリテーションサービスの構築や高知県の医療体制に貢献したいと思い受講を志願しました。

受講途中の感想▶オンライン講義では、子育て中でも無理なく受講できています。画面を通じた演習であっても、講師の先生方の熱意や受講者の方々の意見はとても刺激になっています。

抱負▶このプログラムで習得した知識・技術を臨床へ広く汎用させ、主任という立場で多方向的視点から戦略を立て、現場での実践力を高めていきたいと考えます。そして、より質の高いリハビリテーション医療の提供に繋がって行きたいと思っています。



社会医療法人近森会
近森病院
リハビリテーション部 作業療法科
道倉 由美香 主任
みちくら ゆみか

動機▶2020年4月にこの役職に就任してから、臨床検査部門の活動に対する設備投資等の判断が、病院経営に大きな影響を与えていることを実感しました。一方でわたくしは、これまで臨床検査の技能習得に注力するあまり、病院経営・組織行動・リーダーシップなど、部門運営能力を習得する機会にほとんど接してこなかったことを痛感しました。この状態で部門を運営することに危機感を覚え、病院経営等について体系的・実践的に学ぶことができる本プログラムを受講することを決断しました。

受講途中の感想▶慣れた環境から参加できるオンライン形式の方が対面形式よりも議論しやすいです。講義・演習ともに内容をフォローすることで精いっぱいですが、おかげさまで毎日が充実しています。

抱負▶自部門が求められる役割を多面的・多角的に考察する能力を習得していることを期待します。習得した能力を活用し、他職種の皆さんと「共通言語で会話(仕事)できる」仲間を育成するとともに、皆さんから「頼られる」部門を構築したいと考えております。



高知大学医学部附属病院
医療技術部 臨床検査部門
徳弘 慎治 臨床検査部門長
とくひろ しのじ

2021年度受講生に訊く、受講の

動機と抱負

動機▶年齢が上がるにつれ、医師として必要とされる手術や診療以外のスキルも求められるようになってきたことを実感しています。リーダーシップや経営に関することです。良い医療が提供され、職員も働きがいがあり、経営も安定してこそ、地域から信頼される病院になれると思います。そのためには医師が病院経営を考え、リーダーシップを持って、マネジメントすることが理想だと思いますが、残念ながら、医師は経営学を学んではいません。そのような中、病院経営についての本プログラムのことを知り、体系的に学びたいと思い受講しました。

受講途中の感想▶オンラインであることは残念ですが、それであっても非常に多くの学びをいただいています。毎回、興味深く拝聴し、退屈しません。

抱負▶本プログラムで学んだことを基本に、自院でも可能な実効性ある取り組みを展開し、当院の地域でのあり方をより良い方向に進めて行きたいと思っています。

動機▶受講の動機は、病院経営全般について体系的に知識を得ること、困ったときに相談し合える仲間を得ることです。病院の業務は幅広く、規制や制度も複雑なため、自分の持つ知識だけでは十分とは言えません。また同じような課題をもち、互いに相談できる仲間がいることは貴重な財産となります。

受講途中の感想▶病院経営学演習はケースディスカッションが面白いです。また、「疫学研究のための統計学」では日常業務でも使えるエクセル関数の習得が楽しかったです。

抱負▶これまで院内の会議に参加するときは、できるだけナイスな意見を述べて、自分の意見が結論に反映されることを目指していたように思います。ところがこのプログラムで学んだディスカッションの目的は違います。人は同じ事実を見ていてもそれぞれ視点や解釈が異なります。お互いに意見を述べあうことで、一人では見えていなかったことが見えるようになる、これがディスカッションの目的です。今後は、会議の参加者が各自の視点から意見を言いやすいような雰囲気になるよう意識し、みんなで納得解を探していきたいと思っています。

高知県高知市病院企業団立
高知医療センター
地域医療センター長
林 和俊 副院長
はやし かずとし

動機▶自身の経験に基づき「その場で」受講生の疑問に答えていくスタイルが斬新で良かった。

動機▶このプログラムで学んだことを基本に、自院でも可能な実効性ある取り組みを展開し、当院の地域でのあり方をより良い方向に進めて行きたいと思っています。

受講途中の感想▶病院経営学演習はケースディスカッションが面白いです。また、「疫学研究のための統計学」では日常業務でも使えるエクセル関数の習得が楽しかったです。

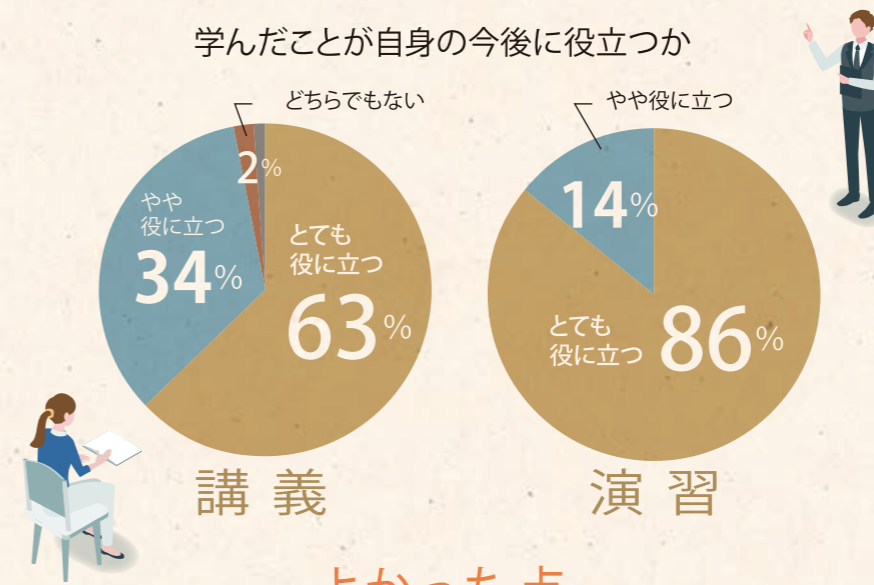
抱負▶これまで院内の会議に参加するときは、できるだけナイスな意見を述べて、自分の意見が結論に反映されることを目指していたように思います。ところがこのプログラムで学んだディスカッションの目的は違います。人は同じ事実を見ていてもそれぞれ視点や解釈が異なります。お互いに意見を述べあうことで、一人では見えていなかったことが見えるようになる、これがディスカッションの目的です。今後は、会議の参加者が各自の視点から意見を言いやすいような雰囲気になるよう意識し、みんなで納得解を探していきたいと思っています。

高知県立
幡多けんみん病院 経営事業課
上熊須 英樹 経営企画担当チーフ
かみくます ひでき

2021年度 週末セミナーについてのアンケート結果より

2018年度～2021年度 週末セミナーの延べ人数で集計

- 参加者数 [講義177] [演習177]
- アンケート回収数 [講義169] [演習170]
- 回収率 [講義95%] [演習96%]



学び・気づき

病院財務分析はやはり難しいです。苦手意識を克服しなければと感じております。**組織行動論は、リーダーとして必要な知識技術と確信いたしました。**

これからの管理する職位の人に学んでほしいことがたくさんあり、今後もプログラムを継続してほしいと思います。もう少し若い時に受けることができれば、尚、良かったと思っています。

オンライン授業での寂しさもありましたが、受講者の皆さんのプライベートな部分を紹介する機会があり、親近感が湧き嬉しかったです。

ファシリテーターの仕方、WEB研修の方法など**副産物としての学びもありました。**

ディスカッションで多く発言するためには、自分のやる気を高めておく必要があると思った。

「マネージメントは技術である。トレーニングで上達する。」を信じて、**ここで学んだことを現場に活かして行きたい**と思います。

職種の違いの方々と話し合うことができ、大変有意義でした。

Web開催でしたので、遠方においても受講しやすかったです。

講義

経営分析については何度も講義の中であるので、フレームを使って実践で活用できそうに思う。

系統立てて医療という観点から経済学を学べる機会は少なく、貴重な講義であったと感じました。

短時間で多くのことを学ぶ時間配分に感じますが、後で復習できるようにビデオ配信して頂けるので助かります。

実際の現場においてすぐに役立つ考え方、知識を得られる点が素晴らしいと思います。

自身の経験に基づき「その場で」受講生の疑問に答えていくスタイルが斬新で良かった。

よかった点

演習

実際に何度もトレーニングすることができて良かったです。自身で考え、グループで考え、全体の意見を聞けることで各々の事例を整理することができました。

講義形式ではなく、ケーススタディーという形式で学ぶことは、自ら考え、他の意見を聞くことができ、有用な方法だと思いました。

テーマを深く掘り下げて考えるためには様々な立場からの意見が必要であると実感できました。

グループワークにて、さまざまな職種をバックグラウンドとする受講生と意見交換ができたことが良かった。

演習をして自分で考え、そのあとまとめてくださるので大変良く頭の中が整理できます。

社会医療法人 近森会
近森病院 看護部
吉永 富美 看護部長
よしなが ふみ

看護師



学習した「ウーダ」が
目標管理する上で、非常に
役立ちました。

卒業生の声

きっかけ▶看護部長に就任後の経営マネジメントの必要性 入院基本料の中に「重症度、医療・看護必要度」が入るようになり 看護師の人員配置や重症度に対する対応が経営に大きく影響するようになりました。昔は看護の質を上げることこそが一番の貢献だと思っていましたが、看護部長になってから、経営マネジメントをしっかり勉強する必要があると感じていました。それに2年に1回は診療報酬改定もあります。看護部長として、いち早く目標を立て運営していかなくてはならないという責任もあり、四国病院経営プログラムのお話をいただいたタイミングで参加を決めました。

修了後▶経営戦略的な考え方と論理的な話し方が身についた 私は受講中、看護師の人員配置や病棟編成をどのようにしていけばいいかを課題としていました。四国病院経営プログラムの学びのなかで、自部署の強み弱みを考えることが多くなり、スタッフの特性や患者様の重症度、病床数や入院費などを考慮しながら経営戦略的に解決策を考えられるようになったと感じています。

また、フレームワーク「ウーダ」を学習しましたが、現状分析、仮説設定、意思決定、行動というこのサイクルが、目標管理をする上でとても役に立ちました。予測をしながら計画や目標をたてられるようになったと感じており、診療責任会議に参加した際などの、看護部としての意見を求められるとき「なんとなく」話していたことを「明確な理由」をつけて説明できるようになりました。

現在▶今までの抽象的な目標から、実現可能かつ具体的な目標へ 毎年、近森病院では一年間の目標、ビジョンが定められ、それに基づき各部署で目標をたてるのですが、今まで看護部では抽象的な目標しかたてられず、年2回上期と下期で行う目標評価も判断基準がないため随分曖昧なものでした。ですが今では、データを分析し実現可能かつ具体的な目標をたてることができている。例えば、ベッドの回転率や離職率など数値化できる目標は、具体的な数字を設定できるようになり、評価もしやすくなりました。他には、経営や組織運営に必要なデータがわかってきたので、情報を集めやすくなったというもあります。以前は「情報はすべて自分が集めなくてはならない」と思い込んでいましたが、病院内には必要な情報が揃っています。なにが必要なのかを自分が把握していれば、以前よりも簡単に情報が集められるようになり、心の負担が減ったのを感じています。

今後▶スタッフ育成、キャリア支援に力を入れたい 今後はスタッフの育成やキャリア支援により一層力を入れていきたいです。看護師ひとりひとりと向き合い、どのような「看護」をしていきたいか、ワークライフバランスなども考え、戦力となる看護師を育てていくこと。そして、認定看護師など専門性の高いスタッフのキャリア支援も行っています。

(沖縄)社会医療法人 敬愛会
中頭病院 事務部
大城 学 事務部長
おおしろ まなぶ



事務

定期的な勉強会を実施し、
地域に根ざした医療人材育成を
目指しています。

卒業生の声

きっかけ▶病院経営や組織管理を体系的に身につけたい 2017年度、事務部長を拝命し、病院経営や組織管理を体系的に身につけたいと思っていたのがきっかけです。また、開催場所の高知県は、高齢化と人口減少が著しく進んでおり、医療の現状や課題が沖縄県と重なっている点や、人を育てることがこれから更に重要になると考えていたので、地域に即した医療人材を育成するカリキュラムに関心があり受講しました。

修了後▶今でも意見交換できる関係性が築けた たくさんの方との交流、知識、お金では買えないネットワークを得られました。今でも、迷いや課題が出てきたときは講師へ相談し、自分の考えが一方的になっていないか確認しています。また、現受講生の前でOBが発表する「交流会」では、私が取り組むカリキュラムづくりへのアドバイスを受講生からもいただきました。

2021年4月からは、四国病院経営プログラムの上村先生が所属する、高知工科大学大学院の起業マネジメントコースの修士課程で、新たに分野の違う経営の勉強をしています。

現在▶自身で勉強会を開催 「地域に根ざした医療人材」を育成するため、マネジメントや自部署以外の業務への理解を深める院内カリキュラムを作成し、勉強会を実施しています。2019年からスタートした敬愛会病院経営プログラム(事務部門)は、初年度、年間13回の研修、翌年は全19回、と内容もボリュームも幅を広げました。2年間で45名の受講者、50回を超える講義を行いました。一方的な講義ではなく、楽しく学べることを心がけています。さらに今年度、カリキュラムの修了生を対象にディスカッション、ケーススタディを組み込み、議論から確論に入っていけるカリキュラムのセカンドステージを新しく開講しました。

受講者からは、「仕事の知識の幅が広がり、生産性が高まった」などの声が挙がっています。また、勉強会に興味を持ったドクターの参加もありました。時間の都合などで参加できなかった介護やリハビリ、看護スタッフも今後は参加しやすいよう、スケジュールを見直し、少人数で少しずつ上げながら満足度を高めていければと思っています。

ほかにも、病院の事業計画について、若手を積極的に参加させる取り組みを実施。新施設の利用方法を考え、理事会へ発表しました。組織の考え方と自分たちの考え方との違いや、マインドセットの共有により、現場のアイデアの発掘やモチベーションが高まる機会となりました。

今後▶次世代を見据えた人材育成が目標 今年、沖縄で開催(WEB配信)された日本病院学会のシンポジウムに、「病院経営の質向上と次世代を読む新たな取り組み」というテーマで登壇しました。他の病院もキーワードは「人材育成」で、人を育て定着させることは病院経営に直結する、それを実現するためのプログラム化が、共通の課題となっていました。

2022年2月に、敬愛会グループに介護施設や診療所が新しく加わる予定です。新しくスタートする事業所なので、考え方、価値観、法人の目指すベクトルを合わせる事が大事になってくるため、それを踏まえたプログラムを試行錯誤しています。

今後は、この次世代を見据えた人材育成が敬愛会グループだけではなく、沖縄県全体の医療機関に広がっていくことが重要だと思っています。今後、参加者が院内外問わず増えた時のためにも、私たちももっとレベルアップしていかなくてはと思っています。



医師
(病院長)

「病院運営という視点」から、冷静に課題の本質を考え、行動できるようになりました。

卒業生の声

きっかけ▶当時の病院長の勧め 地域医療センター長をしていた頃、当時の病院長に勧められたのがきっかけです。その翌年、副院長となり、四国病院経営プログラム第一期生として参加しました。

感想▶経営や財務の考え方・視点が広がった 以前は「泌尿器科長」、「地域医療センター長」として働いておりましたが、その当時は意識してこなかった経営や財務のことに触れ、考え方や視点が広がり、とても勉強になりました。

最初の講義での、菅沼先生による国民皆保険の話や日本と他の国の医療制度の違い、日本のこれからの医療の方向性などを学んだことが印象的です。普段忘れてしまっている当たり前のことや、基礎的なことから学び直すことができました。

メリット▶相談や情報共有ができる環境の構築 わざわざ都心に行かなくても地域で学べる場があり、その地域や近隣で働く医療従事者の方々と一緒に考え学ぶことができる場合は貴重だと思います。参加者の方それぞれ視点や考え方が異なり、大変刺激的でした。そして、ネットワークが広がったことで、何かあればすぐ相談できる、情報共有ができるという環境を構築することができたことも、受講して良かったことのひとつです。

終了後▶病院運営に活かせる 私の場合、「病院経営」というよりは「病院運営」に活かせると感じています。例えば、人員の配置やコミュニケーションのとり方、職員の育成、病院の課題解決のための体制などでしょうか。

2020年、新型コロナウイルスの感染が猛威をふるい、ケーススタディで学んだような「予期せぬ事態」が発生しました。受講後、以前よりも視野が広がり様々な視点から物事をみられるようになったと感じています。だからこそ、解決しなければならぬ多くの課題が浮き彫りになったことも事実です。この状況のなか、いち早く医療体制を整えていかなければなりません、価値観や考え方の違うスタッフも必ずいます。その際にどうやって納得してもらうか、どのように伝えたとそのスタッフが同じ方向を向いてくれるのか、考え導いていくのはとても難しかったです。また、新型コロナウイルスの患者様を受け入れることだけが当院の役割ではありません。「通常の診療」を続けながらの体制づくりは、本当に困難でした。ですが、このような状況のなかでも「病院運営」という視点を持てたことで、組織の人と人との関わり方に目を向けることができました。働いてくれている全てのスタッフへのケアを忘れないでいることができたと思います。いま起きていることを冷静に捉え、課題の本質を考え行動できるようになったと感じています。

現在・これから▶目標は、経営の安定と地域との連携強化 高知医療センターでは、5年間の経営計画を4月からスタートさせました。自分が先頭に立ってこの計画を実行し、経営を安定させること、そして地域との連携を強化することが今現在の目標です。そして、患者様が満足する医療を提供し、それを叶えてくれている職員全員が自分の仕事に誇りを持てるような病院にしていきたいと考えています。「医療の主人公は患者さん」であることを忘れず、市民、県民のみならず、より良い医療をうけられるよう追求していきたいです。

2018年4月に開設してから現在まで

講師からみた「四国病院経営プログラム」とは

講師の声

四国病院経営プログラムは貴重なコミュニティ

裏 英洙 Hai Eishu



●受講生の課題の変化

四国病院経営プログラムの受講生は、熱心かつ志の高い優秀な方が多く、講師陣もそれに応えるために真剣に取り組んでいます。

プログラムの内容は、時代の変化やニーズに合わせて変わっています。近年の新型コロナウイルス感染の流行下で、不確実性を考慮した新たな経営の視点を知りたいという受講生が増えました。流行前は、確実性を求めて課題を深く考えるケースが中心でしたが、withコロナになり、深く幅広く学ぶ必要性が出てきたことで、講義の中でもコロナへの対応などを加味するなど、ディスカッションの切り口も一面二面、増えてきました。

自身の課題を1年かけて取り組める

上村 浩 Hiroshi Uemura



●開設当初からの変化

当初、参加している医療従事者には「病院は利益を追求することが目的ではない」といった考えが多いなか、「利害を考える経営」の話はすぐには受け入れがたかったと思います。今では、「経営」の視点を柔軟に捉えた議論や、学んだことをアレンジして自分の働く組織に取り入れる受講生が増えてきました。

●受講生の傾向

受講生は、解決したい問題を明確にして参加されています。中でも多いのは、組織の問題です。改善に向けて取り組んでも、組織運営に関す

●講義内容

開催場所や参加者により内容に変化を持たせています。例えば、都市部では都市型病院の経営戦略を取り上げていますが、四国病院経営プログラムでは、地方の実情に即した少子高齢化などの課題を踏まえたケーススタディ「高知の医療政策」をテーマとしてディスカッションしています。ケーススタディは、自分の頭で考え、答えのない問いとして課題を見つける作業です。答えを欲しがらなくても一定数いますが、経営には様々なケースがあります。受講生は能動的な方が多く、活発な意見交換の場になるので、私自身、いつも受講生と脳みその汗を一緒に流しています(笑)。私の肩書は「講師」ですが、教える側というよりは、同じコミュニティで、一緒に課題に向き合い、考え学ぶという姿勢でいます。受講生の目線と同じ位置で議論の交通整理役として、気づきの機会をできるだけ多く与え、新しい視点や知見の提供を行っています。

●受講の一番のメリット

職種・年齢や性別も異なる受講生が、病院経営に関して双方向的に学べる環境は決して多くないなか、この四国病院経営プログラムは貴重な「コミュニティ」だと思います。コミュニティがより強固になる要因として「時間」「空間」「体験」の3つの共有がありますが、四国病院経営プログラムはこの全てを余すことなく提供しています。だからこそ、一緒に学んだ受講後のネットワークはコンテンツ以上の価値になります。「情報共有ができる」「何かあれば相談できるという安心感」が修了後も続くのは、メリットだと思います。

●今後の展望

今後、「ケースディスカッション」が医療人材育成のメソッドとして定着し、それを教える人が増え、その結果、現場でさまざまなケースを想定し行動できる人が多く育つのは嬉しいことです。受講生には、学んだことを実践し現場で活かしてもらうこと、それが多くの人に伝わることで、病院の課題解決に繋がってほしいです。

る調整は遅々として動かないことが多く、これをなんとか変えたいという思いを持たれています。

●本プログラムのメリットと特徴

ひとつは、自身が所属する組織の具体的な課題を、1年かけて解決に向けて取り組めること。個々の課題に対し、改善策を検討、実行するためのフォロー体制がしっかりしています。以前、課題解決に向けて取り組む中で、組織とコンフリクトしてしまい解決まで進まないことがありましたが、それを継続してどう解決するかも次の課題となるため、貴重な経験値になります。このような取り組みが、2020年文科省に高く評価されたのではないのでしょうか。 ※2020年3月、本プログラムは、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム(平成29年度選定分)中間評価で「目標を上回る効果・成果が見込める」と評価され、最高評価の「S評価」を得ました。

もうひとつは、講師陣が医療や病院に関わる講師だけでなく、経営者やコンサルタントなどで構成されていること。病院の門外漢から違う意見や質問が挙がることで、課題に対して違う視点

で捉えた議論ができます。また、多くの講師は高知県内にいるため、短期的な関係性でなく、長期的にやりとりが出来るのもいいと思います。

今後、プログラムのなかに、病院を利用する側の声を聞く講義があると面白いと考えています。特に、若い人の病院に対する考え方を聞くことで、未来における病院のあり方や必要なことが、今までとは違った角度からの課題やアイデアが見つかるのではないかと思います。

●今後の展望

毎年、受講生の具体的な課題を15~30ケースとりあげていて、修了時にはその成果をプログラム内で発表しているのですが、プログラム内だけの発表ではもったいないと思っています。今後は、うまく改善できたものをまとめて、情報発信したり、メディアを使って露出すれば、課題改善の成果を多くの人に伝えられ、改善例が参考になる病院もあると思っています。

募集要項概要

- 募集人数** 15名
- 受講期間** 2022年4月～2023年3月(1年間)
- 受講場所** 基本的にオンライン講義(状況により対面形式も併用)
※9月10・11日は、高知大学医学部に集合しての対面講義を予定しています。
- 応募方法** 選考料を振込のうえ、次の応募書類を添えて郵送もしくは持参にてお申し込みください。

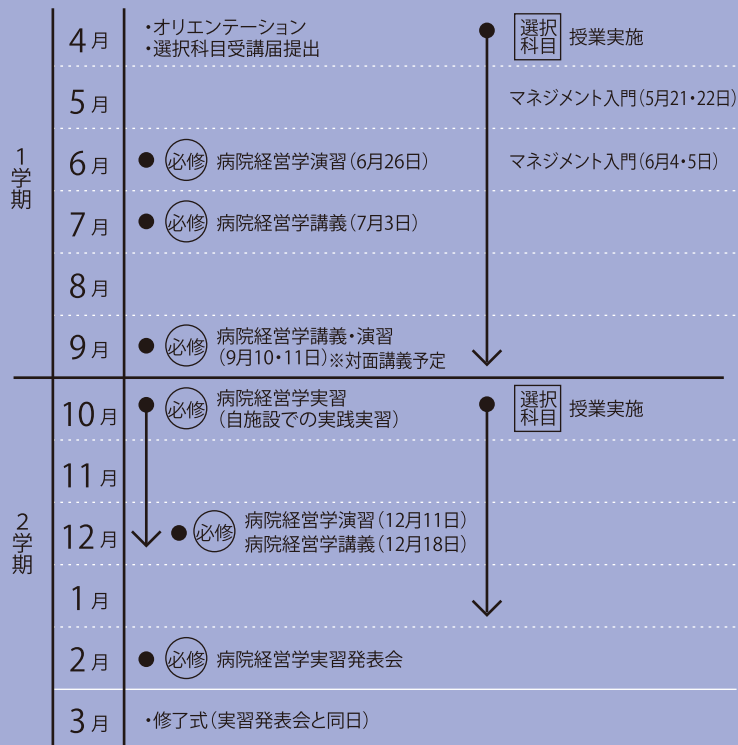
- ①受講申請書(本プログラム所定の用紙による)
- ②履歴事項(本プログラム所定の用紙による)
- ③志望の動機(本プログラム所定の用紙による)
- ④最終出身学校卒業(修了)証明書
- ⑤振替払込請求書兼受領証の写し(選考料振込時のもの)
- ⑥本人確認資料
郵送の場合:運転免許証等の写しを同封
持参の場合:運転免許証等の掲示

※申請書類は、四国病院経営プログラムホームページからもダウンロードできます。

募集期間 2021年12月1日(水)～12月20日(月) [必着]

- 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)指定講座に申請中
※申請が認定されない場合もあります。ご了承ください。

2022年度 スケジュール(予定)



〈資料請求先・問い合わせ先〉

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部・病院事務部学生課大学院係 四国病院経営プログラム担当
TEL:088-880-2290 / FAX:088-880-2264 Email: hmp4@kochi-u.ac.jp